

令和7年度 第2回 学校運営協議会

1. 日時 令和7年10月8日(水) 9:30~11:00

2. 出席者

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校校長(地域コーディネーター)

【委員②】浜松市中障害者相談支援センター所長

【委員③】PTA 会長

【委員④】自治会 地域防災担当(地域コーディネーター)

(2) 校内教職員

校長 副校長 事務長 幼稚部主事 小学部主事 中学部主事 支援部主任 教務主任

保健防災課長

3. 会議次第

(1) 校長挨拶

(2) 授業(避難訓練)参観

(3) 協議

(4) 校長挨拶

4. 協議等記録

○校長より

<学校経営 前期の成果と後期に向けて>

後期はポイントをしぼって、教師の目標を明確にして指導に当たっていく。デフリンピックにむけて本校卒業の日本代表選手や、ブラジル選手団との交流を行う。国旗にメッセージを書いて渡す等、様々な活動を予定している。色々な刺激を受け、子どもたちの成長につなげたい。関東聾学校卓球大会でも中学部の生徒が成果を挙げた。勝ちたい、頑張りたいという精神面の成長を感じた。

<第2回学校運営協議会の主な目的>

本日は避難訓練を見ていただく。聞こえづらい子どもたちの避難方法、情報の受け取り方、伝え方等を考えたい。本校は崩壊特別警戒区域になっていて、建物は問題ないが、地盤が揺れるため、土砂災害の場合は校舎の中央に避難する方法をとっている。また、地震時の避難場所に関しては、避難路の確保のため、今年度からグラウンドから教員玄関前に変更をした。年間5回の避難訓練を実施し、実際の発災に向けて訓練を重ねている。今日は予告なしの避難訓練を実施する。もっとこうした方がいいという建設的な御意見をいただきたい。

○協議事項

<地域とともにできる防災教育、実践的な防災訓練>

Aグループ

子どもの中には、放送で地震の音を聞いて「今日、訓練あるって聞いてないよ。」と、訓練を訓練としてしかとらえられない子も多かった様子。地震の直後は机の下に避難するという行動で本当にいいのか？放送で指示があるまで待つでいいのか？放送を待たずに逃げるのか？検討の必要性を感じた。

避難所での情報のとりかたとして、ホワイトボードが欲しい。自治会では、芝生公園で情報を集約して伝えている。萩丘小学校に避難する場合、自治会等、校外へどう情報を伝えるかが課題。

Bグループ

避難訓練や事後指導を見て、丁寧な日常の指導の積み重ねによって、防災知識が身に付いていると感心した。学校での避難は落ち着いてできている。

学校外で被災した場合について学習にいるときの被災について学習していく必要がある。登下校中に被災した場合や、夜間、補聴器や人工内耳を外した状態での被災などについては、実際の訓練でなくても机上訓練でも効果が期待できる。障害の自己認識・自己理解を深め、発災時に、聞こえづらさという不便をどうしたらクリアできるのか考える機会を繰り返し設定し、防災学習で取り組む必要がある。先輩聾者から経験談を聞くことができれば、自分事として考えられるのでは。

○校長より

いろいろな視点からの御意見をいただきありがとうございました。

私たちは日々考え、子どもたちの命を守るために、防災教育をよりよいもののバージョンアップしていきたい。